

音ぷや休ふ, 記号について

1. 音ぷについて

いろいろな音ぷがありますね。それぞれの名前がわかりますか？

音ぷは、音が鳴っている長さを表します。

音ぷの長さ

○ = ● + ● + ● + ● (◯ + ◯)

◯. = ● + ● + ● (◯ + ●)

◯ = ● + ●

●. = ● + ● (● + ● + ●)

●

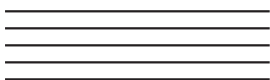
●. = ● + ●

● ● の半分

● ● の半分

音ぷの部分の名前

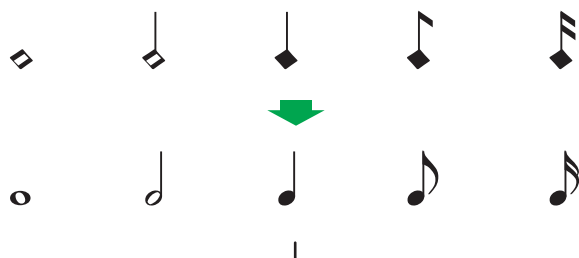


また、音ぷは  (五線ふ)

などに書かれたときは、
たまの位置で音の高さを表します。

〈音ぷ^{いまむかし}今昔〉

今から550年くらい前に使われていた音ぷと、今の音ぷを比べてみよう。



2. 休ふについて

音のない時間を表すために、休ふを用います。

4分休ふ



4分休ふは ♩ (4分音ふ) と同じ長さを休みます。



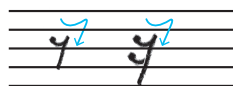
書くときは、下から上へ書きます。
五線ふに書くときは、書き始めを第二線の下から書き始めることを基本とします。

8分休ふと16分休ふ



8分休ふは ♪ (8分音ふ) と同じ長さを休みます。

16分休ふは ♪ (16分音ふ) と同じ長さを休みます。



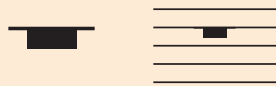
二つとも、書くときは左上から書きます。
五線ふに書くときは、書き始めを第三線の上から書き始めることを基本とします。



他にもいろいろな休ふがあります。

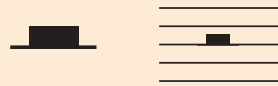
[例]

全休ふ



の四つ分休む
または1小節休む

二分休ふ



の二つ分休む

3. ト音記号, ヘ音記号と五線, 小節

ト音記号, ヘ音記号と五線

五線は、音の高さを表すために使われる五本の線です。
加線を使って、さらに高い音や低い音を表すこともできます。

ト音記号とヘ音記号を使った楽ふについて見てみましょう。

(C D E F **G** A B C) 音の名前 (英語)
(ハ ニ ホ ヘ **ト** イ ロ ハ) 音の名前 (日本語)

同じ高さの音 →

(**ト** レ ミ ファ ソ ラ シ **ト**)
(**ヘ** **F** G A B C) 音の名前 (日本語)
(C D E **F** G A B C) 音の名前 (英語)



ト音記号は、アルファベットの「G」の形を変えたもので、
第二線の下から書き始めます。
第二線が「ト(G)」の音であることを示して、
その楽ふが表す音の高さがわかるようにしているのです。



ヘ音記号は、アルファベットの「F」の形を変えたもので、
第四線から書き始めます。
第四線が「ヘ(F)」の音であることを示しているのです。
ヘ音記号は、低い音を楽ふに表すときに用います。

小節など

楽ふは、^{ひょうし}拍子に合わせてくぎります。

くぎるときは小節ごとに^{じゅうせん}縦線などを用います。

4分の4拍子のときの例 

4分の3拍子のときの例 

4. ブレス(息つき)

∨は息つきを表します。

息つきは、フレーズの切れ目など、せん^{りっ}律やリズム、歌詞^{かし}の流れが不自然にならないようなところでします。

5. 拍・拍子^{はく ひょうし}

拍 ……音楽の流れのもととなる単位です。^{しんぞう}心臓の動きのように一定の間かくで流れ、その間かくの長さによって音楽の速度が決まります。

拍子 ……いくつかの拍でつくられたまとまりです。多くの音楽は、そのまとまりをくり返しながらか進みます。まとまりの中に、強めの拍や弱めの拍があり、音楽の流れをつくり出します。

[例]

4分の4拍子



…… 4分音ぶを1拍とする4拍子。
1小節は4分音ぶが4つ分になる。

4分の3拍子



…… 4分音ぶを1拍とする3拍子。
1小節は4分音ぶが3つ分になる。

4分の2拍子



…… 4分音ぶを1拍とする2拍子。
1小節は4分音ぶが2つ分になる。

8分の6拍子



…… 8分音ぶを1拍とする6拍子。
1小節は8分音ぶが6つ分になる。

3拍ごとに小さなまとまりとし、
ゆるやかな2拍子として
とらえることもある。

2分の2拍子



…… 2分音ぶを1拍とする2拍子。

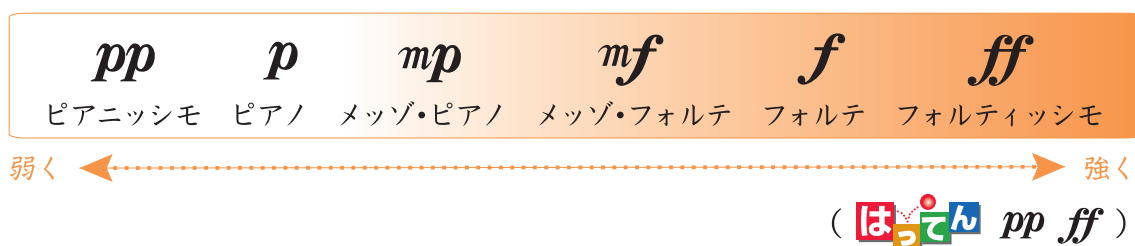
楽ふでは、拍子のまとまりごとに1小節とし、^{じゅうせん}縦線などでくぎります。

(→3. ト音記号、ヘ音記号と五線、小節)

6. 強弱記号など

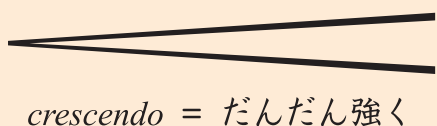
フォルテ, メッツ・フォルテ, メッツ・ピアノ, ピアノ

強さを楽ふ上で表すときは、「**f** (forte フォルテ) …強く」と
「**p** (piano ピアノ) …弱く」を基本として、
その前に「**m** (mezzo メッツ) …中ぐらいの」を付けたり、
fや**p**を二つ以上並べたりして表します。



ただし、音楽表現での「強さ」は、器械で測ったりするような絶対的なものではありません。作曲した人などが「このような感じで演奏してほしい」という意図を、楽ふに記しているのです。

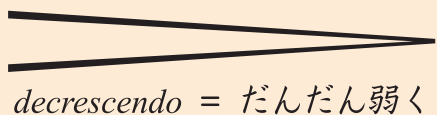
クレシェンド



crescendo = だんだん強く

crescendoはイタリア語です。
楽ふでは *cresc.*とも書きます。

デクレシェンド



decrescendo = だんだん弱く

diminuendo (ディミヌエンド)とも言い、
楽ふでは *decresc.*や*dim.*とも書きます。

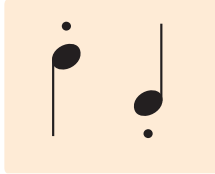
アクセント



クレシェンドやデクレシェンドのようなゆるやかな変化ではなく、記号の付いているその音だけを強めて目立たせます。

「アクセント」という言葉は、言語でよく使われます。言語には、強さだけでなく、高さや長さで表すアクセントもあります。

7. スタッカート



その音を短く切ることを表します。
音ぶで示された音の長さよりも短めに音を出し、
次の音との間に間かくをあけます。

どのくらい短くするかは、音楽のふん囲気や
イメージによって変わります。

8. タイ



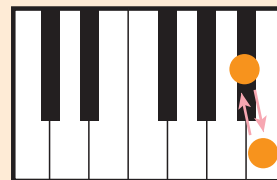
同じ高さの音ぶをタイでつなげて、
音の長さをのばすことができます。
小節の縦線^{じゅうせん}などをこえてつなぐこともあります。

9. シャープ、フラット、ナチュラル

♯や♭などは変化記号と呼ばれ、音ぶの左どなりに付けて、
その音の高さの変化を表します。

- ♯ (シャープ) 半音高く
- ♭ (フラット) 半音低く
- ♮ (ナチュラル) ♯や♭で変化させた音を、
もとの高さにもどす

〔例〕



また、♯や♭が五線の左はし(ト音記号やヘ音記号の右側)に付いているときは、
その五線の段^{だん}の最初から最後まで、変化記号の付いている音を変化させます。

10. くり返し記号(リピート)と、かっこ

曲のまとまった部分をくり返すことを示す記号です。楽ふを見やすくするために考えられました。

〔例〕 1回目は1番かっこへ、くり返した後の2回目は、2番かっこへ進む。
(曲の最初からくり返す場合は、最初のくり返し記号は省略する。)



他に、次のようなものもあります。

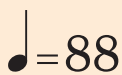
D.C. (ダ・カーポ) …… 最初にもどる

D.S. (ダル・セーニョ) ……  (セーニョ)にもどる

11. 速度記号・速度標語

曲全体の速さを表すもの

下の速度記号は、メトロノームなどで確かめることができます。



…… 1分間に四分音ぶを88回打つ速さで
えんそう
演奏することを示しています。



他に、「**Andante** (アンダンテ／ゆっくり歩くような速さで)」
「**Moderato** (モデラート／中ぐらいの速さで)」のように、
言葉を使って表すこともあります。

曲が作られた時代によって、人々の速さの感じ方や言葉の使われ方が変わることがあります。たとえば「歩くような速さ」は、何百年も前より今の方が速くなっていると言われています。そのため、同じ言葉で速さが示されていても、曲によって演奏の速さがちがう、というようなことがあります。



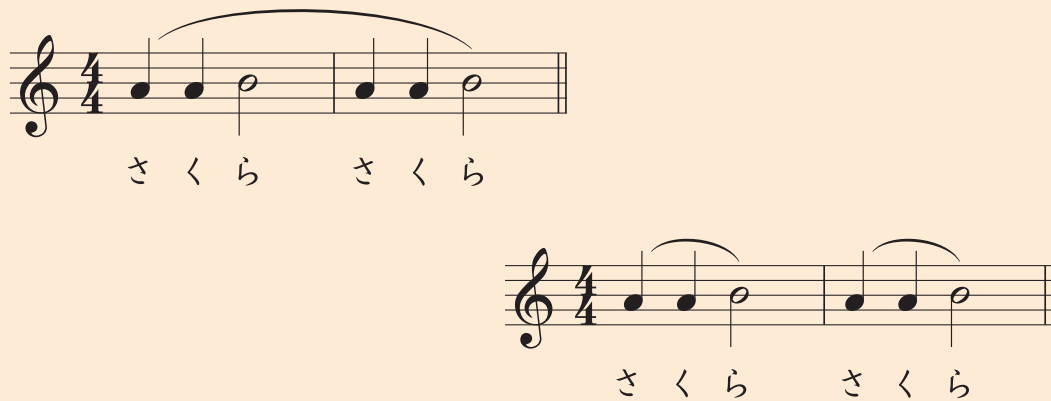
部分的な速さの変化を表すもの

<i>rit.</i> (リタルダンド)	…だんだんおそく
<i>accel.</i> (アツチェランド)	…だんだん速く
<i>a tempo</i> (ア テンポ)	…もとの速さで
Tempo I (テンポ プリモ)	…最初の速さで

12. スラー

高さのちがう二つ以上の音^ふを、切らずになめらかにつなげて演奏^{えんそう}することを示す記号です。

また、フレーズ^{リッ}(せん律のくぎり方)を表すこともあります。



ふく楽器の場合は、一つのフレーズの最初の音だけをタンギングして、ひと息で演奏することもあります。